

大鹿ヌケツチ

2010
弥生
前志満 ぐみ
第 12 号

大鹿HeatBeat

第 9 回 ~ 大鹿の人々 ~

紙谷 正 さん (84)



Spring is coming !!

冬の間、室に保存しておいたはやと
うり(↑)やサトイモを春一番の知
らせとともに出してみると芽が動き
出していました! 植え時です。ほほ
外氣と触れない室の中で種はどうし
て春を知ることができるのか不思議
です。この季節、紙谷さんはそんな
目覚めた種を蒔きつつ主に家の周り
のお花の手入れをされているよう
です。家の周りの斜面を見るとお花の
苗でいっぱい。今は福寿草が最盛期
その横では水仙の芽が顔を出してい
ます。その他 桜や花桃、つつじ、ダ
リアと年間通じて畑仕事の間に花を

めめる時間(和みの時間)作りをす
るのが初春の今。食物だけ作るの
ではなく季節ごとの彩を添えてくれる
花にも目を向け、農繁期の忙しさを
うまく緩和する装置も作るのが紙谷
さんの仕事の流儀です。



● 葦原神社御柱祭の日程 ●



4月17日(土)「里曳き」

朝8:30~9:00 集合

引き手募集しています!!

4月18日(日)「中峰の歌舞伎」

午後より葦原神社舞台にて地芝
居の元祖をお楽しみください!

伊那谷にも「春一番」が吹き
冬の間閉ざされてきた草
木の芽め目覚めの時を迎
えています。気温の変動はし
ばらくありそうですが、土も風
も陽差しもすっきり春の装
い。少々焦りも感じる今日こ
の頃でもありますが、皆さん
はいかがお過ごしですか。
さて、「この春一番」は長崎県
の志岐地方で使われている
もので、それが広く気象用語
となっているわけですが、
「春2番」なる風もあり、こ
れが桜の蕾をほころばせ、
「春3番」が終わって「春4
番」がちょうど桜が満開の頃
花を散らす「花散らし」とも
呼ばれているものです。春は
風と共に訪れ、進行し、過ぎ
去って行くもの・・・だから
春はあつという間に感じる
のかもかもしれません。

大鹿村歌舞伎の発祥の地とされる 大鹿村は鹿塩

中峰(なかみね)の地芝居が4月18日に行われます。

葦原神社(あしわらじんじゃ)をまつる中峰地域におい
て7年に1度の御柱祭の時だけ、中峰に在住しているメ
ンバーのみで構成、上演される地芝居ファンにとっては
まさに「幻の地芝居」ともいえる中峰神社舞台での歌舞伎。
年に2回の定期公演がある大鹿歌舞伎は近年あまりに多
くの人に知られてしまっかなか見る機会がなくなってしまうわと思われている方
に是非おすすめしたいです。さて、先月号では飯田の「お練祭り」について取り上げた
中で、日本神話に登場する出雲大社の建御名方命(たけみなかたのみこと)とその
妃が出雲から信濃に渡って国土を開拓した神とされているから、信濃の国はそれを
まつる諏訪神社を信仰しているということ、ご理解いただけたかとおもいます。で
はなぜ建御名方命が出雲を離れ諏訪の地に行かなければならなかったのか・・・



その前段の話しがこの葦原神社に伝わっていました。実は諏訪大社の

本社が「葦原神社」だったのです。その詳細を探るべく中峰の御長老 古
屋敷 彰美(ふるやしき あきみ)さん(82)を訪ねました。

お話によると天孫降臨(※)で天孫族(あまてらす)の攻撃にあった出雲
族(えびす、大黒 建御名方命)が逃げてきたのが大鹿村の中峰。ここの
豊富な塩水が気に入って住み、狩猟生活をしていたということなのです。



ですがある日、建御名方命が塩見岳の上で下界を眺めたところ湖(諏訪
湖)が目に入りその美しさに心移りして、住まいを諏訪の地に移したとい
う経緯があったことが伝えられています。諏訪大社信仰の源流が大鹿の地にあ
り、また時代は異なっているにせよ今に残る地芝居の発祥の地とされるのが
この地域でもあることになんとか神秘性を感じずにはいられません。古屋敷
さんのお父様は義太夫(大鹿村歌舞伎の現義太夫 片桐さんの先代)だったこともあり大鹿歌舞伎の起源
についてよくご存知、ご自身はお父様に反発してエレキギターを選んだことというエピソードも今となっては
微笑ましいです。※日本神話で、ににぎのみことが、天照大神の命を受けて葦原中国(あしはらのなかつくに)を治めるために高天原(た
かまがはら:多くの神が住んでいたとされる天井の世界)から日向(ひゅうが)国の高千穂(たかちほ:宮崎県北部)に天降(あまくだ)ったこと。

「中馬(ちゅうま)ぬくもり街道おひな
巡り」が3月10日~4月10日まで行
われています。このイベントは、愛知県
豊田市足助で10年続く「中馬のおひな
さん」を飯田街道でつながる当地区に取
り入れ4年前から行っているもので、国
道153号線沿いの商店や民家がシヨ
ーウィンドーなどにひな人形を飾りま
す。参加自治体が年々増え盛り上がり
を見せています。南信州の拠点となつて
見せています。南信州の拠点となつて
んばつているいるのは、かつて宿場町と
して栄えた阿智村は駒場(こまば こま
んば)おススメは路地裏にある大正ロマ
ン漂う「お風呂屋さん」を会場としたス
ポットや三階建ての旅館など、目を閉じ
れば当時の人々のにぎやかな声が聞こ
えてきそうです。また江戸時代から現代
に至るまでのお雛様の表情や地域、時代
ごとの形式を見比べるのも楽しみ方の
ひとつ。愛知との県境の根羽村では土雛
と生きたどじょうが飾られるそうです。

ハンドルを握ってみたい
Pちゃん、車に乗ると、
運転席を占拠します。一人
前にクラクションも鳴ら
してみたり・・・もこも
このPちゃんが近くにいる
と和むので最近はお互に
一緒に行きます。例年より早
く大地が動き出している
ので、そこかしこで農具の
手入れや剪定、草取りなど
に勤しむ人の姿がうかが
えます。私も草取りをしな
がら「Pちゃんもじやれて
いないで草を取ってくれ
ればいいのに!!」・・・目
指せ!初の農業大!とい
う「夢」が私の中で一人歩
きしています。がんばるの
だつ!Pちゃん☆

